

授 業 計 画

シラバス

令和3年度



報徳看護専門学校
第15期生

学籍No.

氏名

目 次

| | |
|------------------------|----|
| I. 教育の概要 | 1 |
| 1. 教育方針 | 2 |
| 2. 主要概念に基づく理論的枠組み | 3 |
| 3. 教育課程の考え方 | 4 |
| 4. 教育課程の構造図 | 6 |
| 5. 臨地実習の位置づけ | 7 |
| 6. 教育過程進度表（学則第 10 条関係） | 8 |
| II. シラバス | 11 |

| | |
|-------------------|----|
| 1. 基礎分野 | 12 |
| 1) 基礎分野構築の考え方 | 13 |
| 2) 基礎分野の構成と科目のねらい | 14 |
| 3) 教授内容 | |
| (1) 科学的思考の基盤 | 15 |
| ①論理学 | 16 |
| ②情報科学 | 17 |
| ③環境生態学 | 18 |
| (2) 人間と生活・社会の理解 | 19 |
| ①哲学 | 20 |
| ②教育学 | 21 |
| ③心理学 | 22 |
| ④倫理学 | 23 |
| ⑤音楽と芸術 | 24 |
| ⑥文化人類学 | 25 |
| ⑦人間関係論 | 26 |
| ⑧運動と健康 | 27 |
| ⑨英語 I | 28 |
| ⑩英語 II | 29 |

| | |
|---------------------|----|
| 2. 専門基礎分野 | 30 |
| 1) 専門基礎分野構築の考え方 | 31 |
| 2) 専門基礎分野の構成と科目のねらい | 32 |
| 3) 教授内容 | |
| (1) 人体の構造と機能 | 33 |
| ①人体機能構造論 I ----- | 34 |
| ②人体機能構造論 II ----- | 35 |
| ③人体機能構造論 III ----- | 36 |
| ④生化学 ----- | 37 |
| ⑤栄養学 ----- | 38 |
| (2) 疾病の成り立ちと回復の促進 | 39 |
| ①疾病治療論 I ----- | 40 |
| ②疾病治療論 II ----- | 41 |
| ③疾病治療論 III ----- | 42 |
| ④疾病治療論 IV ----- | 43 |
| ⑤疾病治療論 V ----- | 44 |
| ⑥疾病治療論 VI ----- | 45 |
| ⑦薬理学 I ----- | 46 |
| ⑦薬理学 II ----- | 47 |
| ⑦微生物学 ----- | 48 |
| (3) 健康支援と社会保障制度 | 49 |
| ①医療概論 ----- | 50 |
| ②環境衛生学 I ----- | 51 |
| ③環境衛生学 II ----- | 52 |
| ④関係法規 ----- | 53 |
| ⑤社会福祉 I ----- | 54 |
| ⑥社会福祉 II ----- | 55 |

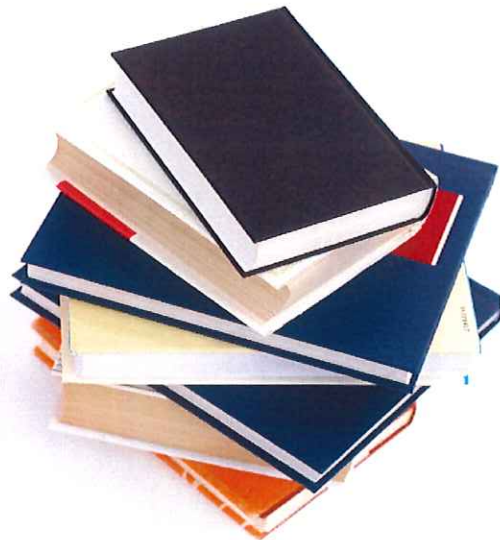
| | |
|----------------------|----|
| 3. 専門分野 I | 56 |
| 1) 専門分野 I 構築の考え方 | 57 |
| 2) 専門分野 I の構成と科目のねらい | 58 |
| 3) 教授内容 | |
| (1) 基礎看護学 | 59 |
| ①基礎看護学概論 I ----- | 60 |
| ②基礎看護学概論 II ----- | 61 |
| ③基礎看護学方法論 I ----- | 62 |
| ④基礎看護学方法論 II ----- | 63 |
| ⑤基礎看護学方法論 III ----- | 64 |
| ⑥基礎看護学方法論 IV ----- | 65 |
| ⑦基礎看護学方法論 V ----- | 66 |
| ⑧基礎看護学方法論 VI ----- | 67 |
| ⑨基礎看護学方法論 VII ----- | 68 |
| ⑩基礎看護学方法論 VIII ----- | 69 |

| | |
|---------------------|----|
| 4. 専門分野 II | 70 |
| 1) 専門分野 II の構築の考え方 | 71 |
| 2) 専門分野 II の構成 | 72 |
| 3) 教授内容 | |
| (1) 成人看護学 | 73 |
| 成人看護学構築の考え方 | 74 |
| 成人看護学の構成と科目のねらい | 76 |
| 教授内容 | |
| ①成人看護学概論 ----- | 77 |
| ②成人看護学方法論 I ----- | 78 |
| ③成人看護学方法論 II ----- | 79 |
| ④成人看護学方法論 III ----- | 80 |
| ⑤成人看護学方法論 IV ----- | 81 |
| ⑥成人看護学方法論 V ----- | 82 |

| | |
|-----------------|-----|
| (2) 老年看護学 | 83 |
| 老年看護学構築の考え方 | 84 |
| 老年看護学の構成と科目のねらい | 85 |
| 教授内容 | |
| ①老年看護学概論----- | 86 |
| ②老年看護学方法論Ⅰ----- | 87 |
| ③老年看護学方法論Ⅱ----- | 88 |
| ④老年看護学方法論Ⅲ----- | 89 |
| | |
| (3) 小児看護学 | 90 |
| 小児看護学構築の考え方 | 91 |
| 小児看護学の構成と科目のねらい | 92 |
| 教授内容 | |
| ①小児看護学概論----- | 93 |
| ②小児看護学方法論Ⅰ----- | 94 |
| ③小児看護学方法論Ⅱ----- | 95 |
| ④小児看護学方法論Ⅲ----- | 96 |
| | |
| (4) 母性看護学 | 97 |
| 母性看護学構築の考え方 | 98 |
| 母性看護学の構成と科目のねらい | 100 |
| 教授内容 | |
| ①母性看護学概論Ⅰ----- | 101 |
| ②母性看護学概論Ⅱ----- | 102 |
| ③母性看護学方法論Ⅰ----- | 103 |
| ④母性看護学方法論Ⅱ----- | 104 |
| | |
| (5) 精神看護学 | 105 |
| 精神看護学構築の考え方 | 106 |
| 精神看護学の構成と科目のねらい | 107 |
| 教授内容 | |
| ①精神看護学概論Ⅰ----- | 108 |
| ②精神看護学概論Ⅱ----- | 109 |
| ③精神看護学方法論Ⅰ----- | 110 |
| ④精神看護学方法論Ⅱ----- | 111 |

| | |
|---------------------|-----|
| 5. 統合分野 | 112 |
| 1) 統合分野の構築の考え方・構成図 | 113 |
| 2) 教授内容 | |
| (1) 在宅看護論 | 114 |
| 在宅看護論構築の考え方 | 115 |
| 在宅看護論の構成と科目のねらい | 117 |
| ①在宅看護概論 I | 118 |
| ②在宅看護概論 II | 119 |
| ③在宅看護方法論 I | 120 |
| ④在宅看護方法論 II | 121 |
| (2) 看護の統合と実践 | 122 |
| 看護の統合と実践構築の考え方 | 123 |
| 看護の統合と実践の構成と科目のねらい | 124 |
| ①看護の統合と実践 I | 125 |
| ②看護の統合と実践 II | 126 |
| ③看護の統合と実践 III | 127 |
| ④看護の統合と実践 IV | 128 |

I 教育の概要



1. 報徳看護専門学校教育方針

1) 教育理念

報徳の教えとは、誠実に働き（至誠・勤労）、自らの状況を見極め計画的に行動し（分度）、人も世も豊かで健全にするという教えである。本校では、報徳の教えをとりいれて、生命への畏敬の念を持ち、人々に適切な看護を提供し、豊かな人間性を養い、倫理に基づく看護実践ができる看護師を養成する。

2) 教育目的

生命の尊厳を基盤に深く人間を理解し、看護の専門職として必要な知識・技術・態度を修得し、対象の健康上のニーズに応え社会に貢献できる看護師を育成する。

3) 教育目標

1. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として、理解できる能力を養う。
2. 生命を尊重するとともに、多様な価値観を認識し共感的態度及び倫理に基づき専門職として看護実践できる能力を養う。
3. 人々の健康上の問題を解決するため、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。
4. 健康の保持増進、疾病予防と治療、リハビリテーション、ターミナル等、健康の状態に応じた看護を実践するための基礎的能力を養う。
5. 人々が社会資源を活用できるよう、保健、医療、福祉制度を統合的に理解し、それらを調整する能力を養う。
6. 対象の状況を察して平等にいたわる気持ちや思いやりを備えた豊かな人間性を養う。

4) 卒業時の学生像

1. 人間の生命の尊厳を守り、人を尊重できる姿勢と高い倫理観を持ち、対象の心に寄り添えるような感性豊かな人間性が基盤に備わっている。
2. 対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解し、ありのままの対象を受け止めることができる。
3. 対象のニーズを考える視点を持ち、科学的思考に基づいた看護実践ができる。
4. 保健・医療・福祉チームの一員として自覚と役割意識をもち、主体性を持ち協働・連携できるための基盤を身につけることができる。
5. 専門職業人としての責任を自覚し、生涯にわたり継続的に看護の専門性を探求する姿勢を持ち自己研鑽できる。
6. 専門職業人として常に自己の身体・心の健康を維持し、自己の行動に責任を持つことができる。

2. 主要概念に基づく理論的枠組み

| | 教育目的・目標 | 卒業生の特性 | 人間 | 環境 | 健康 | 看護 | 教育 |
|--------|--|---|--|---|--|---|---|
| 概念 | <p>生命の尊厳を基盤に深く人間を理解し、看護の専門職として必要な知識、技術・態度を修得して、対象の健康上のニーズに応え社会に貢献できる看護師を育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解し、対象の健康上のニーズを把握し、対象のニーズを考えた看護実践ができる。 生命を尊重するとともに、多様な価値観を認識し共感的態度及び倫理的に基盤を専門職として看護実践できる能力を養う。 人々の健康上の問題を解決するための看護実践に基づく看護実践ができる。 健康の保持増進、疾病予防と治療、リハビリテーション、ターミナル等、健康の状況に応じた看護実践するための基礎的能力を養う。 人々が社会資源を活用できるように、保健、医療、福祉制度を統合的に理解し、それらを調整する能力を養う。 対象の状況を探して平等にいたわる気持ちや思いやりを備えた豊かな人間性を養う。 | <ol style="list-style-type: none"> 人間の生命の尊厳を守り、人を尊重できる姿勢と深い倫理観を持ち対象の心に寄り添えるような感性豊かな人間性が基盤に備わっている。 対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解し、ありのままの対象を受け止めることができる。 対象のニーズを考えた看護実践ができる。倫理的に基づく看護実践ができる。 健康、医療、福祉チームの一員として自覚と役割意識を持ち主体性をもち協働・連携できるための基礎を身につける。 専門職業人としての責任を自覚し、生涯にわたる継続的に看護の専門性を追求する姿勢を持ち自己研鑽できる。 専門職業人として常に自己の身体・心の健康を維持し、自己の行動に責任を持つことができる。 | <ol style="list-style-type: none"> 人間は、身体・精神的・社会的側面を持つ統合された存在である。 人間は、ライフサイクルを通して、環境と常に相互作用しながら成長発達し続ける存在である。 人間は、基本的欲求を満たす要因である。 人間は、様々な文化・伝統により個性がある。 人間は、様々な文化・伝統により固有の価値観をもった生活をしている。 人間は生まれながらにして自由・平等であり、基本的権利を有し、尊厳が守られていなければならない。 人間はかけがえのない存在であり一生を通じて自己実現に向かって成長発達する。 | <ol style="list-style-type: none"> 環境は、人間を取り巻く全ての環境(個体)と外部環境(自然・社会文化)の統合であり相互に影響しあっている。 環境は、人間に健康に影響を及ぼす要因である。 環境は、人間に形を与えるだけでなく、人間の存在によっても変化する。 | <ol style="list-style-type: none"> 健康は、疾病や障害があっても「その人らしく」生きることができ、主体的に生活できる状態である。 健康は、身体的、精神的、社会的にバランスがとれている状態である。 健康は、内臓・神経・外環境の影響を受け、流動的である。 健康は、個人の価値観によって異なる。 健康は、最良の状態から死亡までの連続的なレベルがあり流動的である。 | <ol style="list-style-type: none"> 看護は、健康レベル・発達段階・個人・集団にとらわれないことなく、あらゆる人間を対象とする。 看護は、対象の健康上の問題を明らかにし、解決するために科学的根拠を基にした実践活動である。 看護は、その人が、その人らしくあるように、健康の維持・増進・回復に努め、その人の生活過程を整えることである。 看護は、生命の尊厳を守り、個人の基本的欲求を尊重する。 看護は、人間関係を基盤として行なわれる実践活動である。 看護は、理論を基盤として行なわれる実践活動である。 看護は、社会の変動に伴って変化する保健・医療・福祉に対応できる調整役である。 | <p>教育とは、人間形成を目指すものであり、人間が可能性として持っているあらゆる能力、個性を最大限に発揮できるようにすることである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 一定の知識、技術、態度を身につけることで、教育による身体的・精神的成長を促し、自己実現に繋がるようにしていくものである。 |
| 内容の諸要素 | <p>健康、人間、環境、生活、看護、報徳の精神、保健医療制度、国際社会における日本の保健医療と役割、役割遂行、意思決定、自立、看護倫理、組織、医療倫理、専門職、ケアマネジメント能力、エビデンス、</p> | <p>国際社会の中の看護、地域に根ざした看護、役割遂行、国際的な保健医療システム、国際医療協力、災害と医療、健康の求償、人間の尊厳、報徳の精神、自己研鑽、倫理、役割、責任、自律、調整能力、科学的思考、健康の状態、健康の回復・保持・増進、専門職の立場、サービズ、接遇、郷土を愛する心</p> | <p>人体の構造と機能、成長・発達、ライフサイクル、ライフイベント、適応、行動、欲求、生命の尊厳、生命倫理、個性、文化、社会、人間関係、人権、相互作用、人権コミュニケーション、パーソナリティ、こころ、自己実現、</p> | <p>家族、集団、地域、国家、組織、社会倫理、民主主義、家族、集団、地域、組織、情報文化、国際社会、生活と消費、経済、芸術医療、医療政策、異文化、風土・気候、国際感染症、</p> | <p>生命現象、疾病の成り立ち、ストレスコーピング、危機、悲嘆反応、セルフケア、プライマリ・ヘルスケア、インフォームドコンセント、ライフスタイルと健康管理、ライフサイクルと健康過程、感染症、癌、QOL、治療と看護、残存機能、ホメオスターシス、</p> | <p>人体の構造と機能、疾病の成り立ち、生命倫理、生命の尊厳、成長・発達、組織、ホメオスターシス、適応、行動、欲求、ストレスコーピング、夜勤遂行、コミュニケーション、自己実現、QOL、危機、悲嘆反応、ボディメカニクス、ライフサイクル、健康の回復・増進、インフォームドコンセント、セルフケア、セルフマネジメント、エンパワメント、医療過誤、看護理論、看護研究、看護倫理、看護の歴史、看護の役割、看護技術、看護過程、看護診断、問題解決思考、フィジカルアセスメント、継続看護、在宅ケア、ケアリング、看護管理、</p> | <p>自己概念、自律、自己実現、権利、教育観、信念、思想形成、人間関係、人間形成、成長、指導、支援、家庭、体験、礼節、作法、家庭、体感、行動変容、自己効力、生涯教育、</p> |
| 構造 | <p>自己実現 相互理解 生命の尊厳</p> | <p>自律性 判断力 論理性 倫理性 主体性</p> | <p>人間 国際社会 地域社会 家族 個人</p> | <p>生活環境 内部環境 外部環境</p> | <p>健康 状態 正常を逸脱した状態 健康の維持・増進 最良の状態</p> | <p>看護 看護研究 看護実践 看護技術 看護理論 看護の概念</p> | <p>人間 形成 教育評価 自己教育力 学習と生活指導 学校教育と役割 社会教育 家庭教育 教育の概念</p> |
| 造 | | | | | | | |

報徳の精神、思いやり、感性、人間の尊厳、個と集団、相互作用、責任と義務

3. 教育課程の考え方

カリキュラムの構築は、本校の理念である「報徳の教え」を基に、豊かな人間性の育成と、看護専門職としての成長を基盤とした。すなわち生命と人権を尊重し、誰に対しても平等にいたわる気持ちや思いやりを備え、科学的根拠と倫理的判断に基づき、知識と技術を結びつけた看護実践ができる教育内容を構築した。

1. 基礎分野

専門基礎分野および専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱ、統合分野を学ぶための資質を養うとともに、看護学の理解と実践に活かされるための分野である。そのため本校では、人間と生活、社会を深く理解し、科学的なものの見方、考え方、倫理的判断能力を養い、自ら研鑽し成長し続けていけるよう位置づけた。

2. 専門基礎科目

専門基礎分野は、看護学を学ぶために必要な基礎知識と科学的根拠に基づいた看護実践に向けて必要な基礎的専門知識を習得する。従って、看護学の関連分野の諸理論を学ぶとともに保健・医療・福祉のニーズに対応できるよう、幅広い視野に立って看護の社会的責務を展望できるための基礎づくりをねらいとした。

これらの学習過程から、症状や障害されている部位・機能・疾患・看護へと概念を帰納的思考により深めていけるよう考え、そこから更に各領域の看護学へと発展的学習が促進されるよう設定した。

3. 専門分野Ⅰ

専門分野Ⅰでは、基礎分野・専門基礎分野をもとに、看護を学ぶ専門職業人として、科学的思考に基づいた看護実践が行えるための基礎となる事柄を学習する。また、看護を学ぶ初学者のため、看護の知識、技術、倫理的態度を身につけ、専門分野Ⅱ、統合分野を発展的に学び続けていくための動機づけの役割をも担う。

看護の主要概念、看護の対象を理解し、あらゆる健康のレベルにある人々に心を傾けることができる看護の専門職業人としての態度を形成していける基礎的知識を概論で、基本的看護を構成する諸活動を実践できるための技術を方法論で習得するよう構成した。また、基礎的な看護の考え方や見方に関するものとして対象の個別性に応じた看護展開ができるように、コミュニケーション能力、アセスメント能力、問題解決能力が養えるようなカリキュラム内容とした。

4. 専門分野Ⅱ

専門分野Ⅱでは、専門分野Ⅰをもとに、成人、老年、小児、母性、精神の対象の特性と看護の目的を理解し、各領域特有な基礎知識・理論を学習し、臨地場面に必要とされる知識・技術について学ぶため、5領域の看護学で構成し、科目は概論と方法論で設定した。

概論では、各領域における看護の対象の特性と看護の役割・機能および保健の動向と対策を柱とし、方法論では、健康障害のある人に対する看護の方法と各領域の看護に必要な援助技術を設定した。

臨地実習では、学内で学んだ、知識・技術を実際の場面で応用・発展させ、看護の理論と実践を結び付けて理解できるよう配慮した。

5. 統合分野

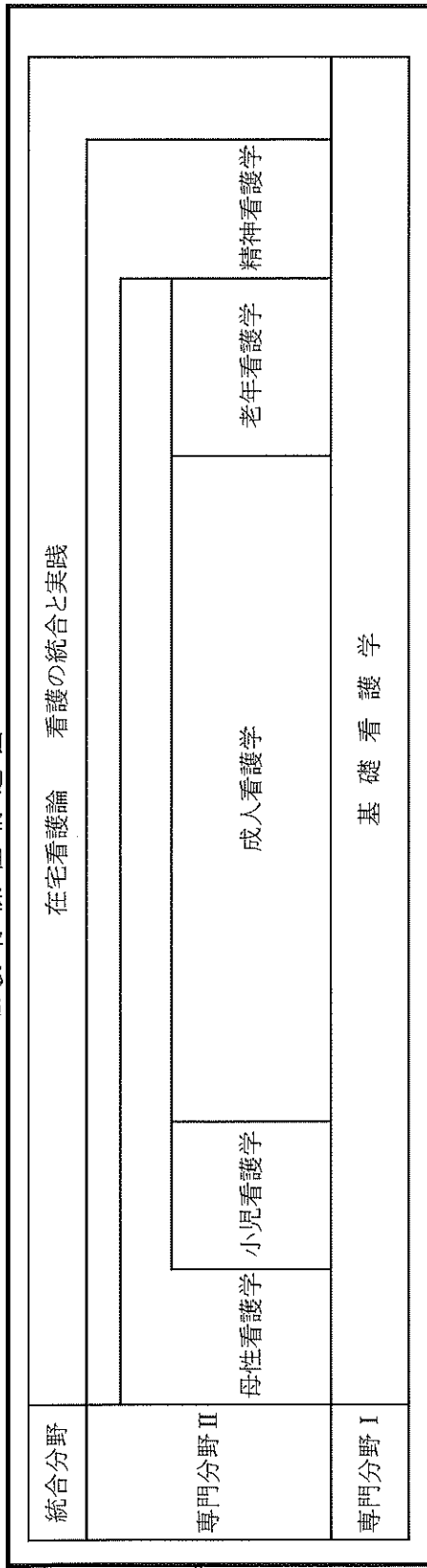
統合分野は基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱと、積み上げて学習した内容を統合し、領域横断的な看護実践に結びつけ、総合的な看護判断と看護実践能力を育成していくことのできる教育内容とし、「在宅看護論」「看護の統合と実践」「臨地実習」を位置づけた。

「在宅看護論」は概論、方法論で構成し、地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、在宅での看護実践の基礎を学ぶ内容とし、終末期看護も含め、在宅での基礎的技術を身につけ他職種と協働する中での看護の役割を理解する内容とした。

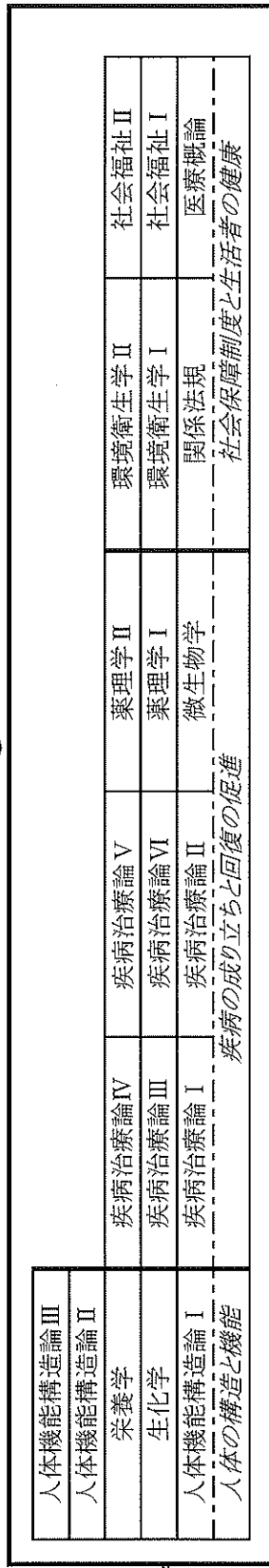
「看護の統合と実践」では、保健・医療・福祉の連携の中で看護の役割が拡大する中、チーム医療における他職種との協働する上でマネジメントする能力を身に付けるとともに、国際的な看護活動や、災害時あるいは救急医療現場において看護の知識や技術が求められることを踏まえ、それらに必要な知識・技術の修得することを目指した。さらに臨地での質の高い看護を提供する上で必要なエビデンスをふまえた看護実践を構築する能力の育成や、生涯学習の観点から看護研究について学ぶ機会とし、看護実践能力を高めるために臨地での看護実践に近い形で知識・技術を統合し、実践するために学内演習の充実を図ることとした。

「臨地実習」は、在宅看護論では訪問看護や福祉施設での実習を通して在宅看護の役割を学ぶ内容とし、「看護の統合と実践」では複数の患者を受け持ち、チームの一員としての役割を学びながら一勤務帯を通した実習を行い、臨地での看護実践により近い形の中で必要な基礎的な知識と技術を統合的に体験的に学べるよう設定した。

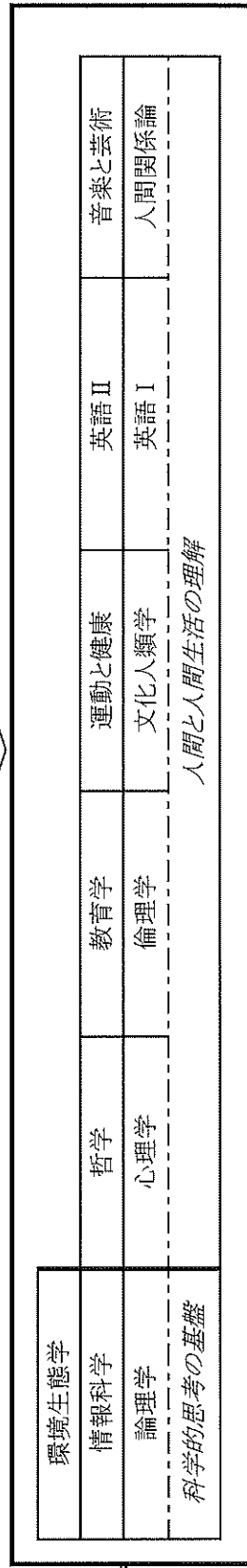
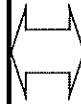
4. 教育課程構造図



統合分野
専門分野Ⅱ
専門分野Ⅰ



専門
基礎分野



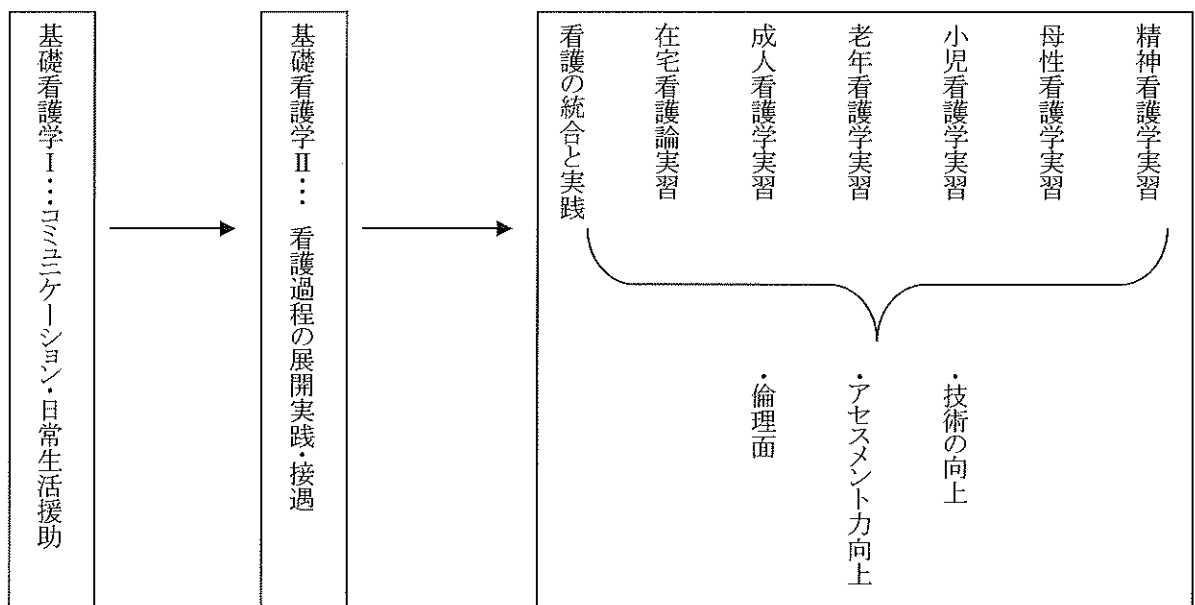
基礎分野

5. 臨地実習の位置づけ

臨地実習は看護学の学習の一形態であり、それぞれの分野はカリキュラム上専門科目のひとつとして位置づける。看護学教育における臨地実習とは、人間と人間の関わりを通して、あらゆる健康レベルの対象に対して学内で学習した知識・技術・態度を応用し、看護実践の場において適用し、統合・体得する学習活動である。その学習活動は、看護学生にとってさまざまな人々に出会い、人間関係を確立し発展させる能力を身につけることが求められる。人間関係を確立するには相手の気持ちを「知る」「わかる」「感じる」「気づく」といった興味や関心を示す感性を養う必要がある。その感性をもとにして、さまざまな人々と協調しながら関係性を形成していく中で、相手の個性を尊重できる豊かな人間性を養う。そのことを通じて学生自身の自己成長や自己研鑽が図られると考える。

臨地実習においては、看護の専門職として必要な知識・技術・態度を身につけるとともに、人間を生命ある存在として尊重し相手を思いやる誠実な態度を育成する人間的成長の場として位置づける。

【 臨地実習の構成図 】



別表第1 (学則第10条関係)

教育課程進度表

| 区分 | 教育内容 | 科目 | 単位数 | 時間数 | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | |
|----|---------------|----------|-----|-----|-----|----|-----|----|-----|----|
| | | | | | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 |
| 基 | 科学的思考の基盤 | 論理学 | 1 | 30 | 30 | | | | | |
| | | 情報科学 | 1 | 15 | 15 | | | | | |
| | | 環境生態学 | 1 | 30 | | 30 | | | | |
| 礎 | 人間と人間生活の理解 | 哲学 | 1 | 30 | | | | | | 30 |
| | | 教育学 | 1 | 15 | | | | | | 15 |
| | | 心理学 | 1 | 30 | 30 | | | | | |
| | | 倫理学 | 1 | 30 | | 30 | | | | |
| | | 音楽と芸術 | 1 | 30 | | | | | | 30 |
| | | 文化人類学 | 1 | 15 | 15 | | | | | |
| | | 人間関係論 | 1 | 30 | | 30 | | | | |
| | | 運動と健康 | 1 | 30 | | | | | | 30 |
| | | 英語 I | 1 | 30 | 30 | | | | | |
| | | 英語 II | 1 | 30 | | | | | | 30 |
| 野 | 小 | 計 | 13 | 345 | 210 | | | | 135 | |
| 専 | 人体の構造と機能 | 人体機能構造論Ⅰ | 1 | 30 | 30 | | | | | |
| | | 人体機能構造論Ⅱ | 1 | 30 | 30 | | | | | |
| | | 人体機能構造論Ⅲ | 1 | 30 | 30 | | | | | |
| | | 生化学 | 1 | 30 | 30 | | | | | |
| | | 栄養学 | 1 | 30 | | 30 | | | | |
| 礎 | 疾病の成り立ちと回復の促進 | 疾病治療論Ⅰ | 1 | 15 | 15 | | | | | |
| | | 疾病治療論Ⅱ | 1 | 30 | 30 | | | | | |
| | | 疾病治療論Ⅲ | 1 | 30 | 30 | | | | | |
| | | 疾病治療論Ⅳ | 1 | 30 | | 30 | | | | |
| | | 疾病治療論Ⅴ | 1 | 30 | | 30 | | | | |
| | | 疾病治療論Ⅵ | 1 | 30 | | | 30 | | | |
| | | 薬理学Ⅰ | 1 | 15 | 15 | | | | | |
| | | 薬理学Ⅱ | 1 | 30 | | 30 | | | | |
| | | 微生物学 | 2 | 30 | 30 | | | | | |
| 野 | 健康支援と社会保障制度 | 医療概論 | 1 | 30 | 30 | | | | | |
| | | 環境衛生学Ⅰ | 1 | 15 | 15 | | | | | |
| | | 環境衛生学Ⅱ | 1 | 30 | | 30 | | | | |
| | | 関係法規 | 1 | 30 | 30 | | | | | |
| | | 社会福祉Ⅰ | 1 | 15 | | 15 | | | | |
| | | 社会福祉Ⅱ | 1 | 15 | | | | | | 15 |
| 野 | 小 | 計 | 21 | 525 | 480 | | 30 | | 15 | |

| 区分 | 教育内容 | 科目 | 単位数 | 時間数 | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | |
|------------|---------------|--------------|-----|-----|-----|----|-----|----|-----|----|
| | | | | | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 |
| 専門分野 I | 基礎看護学 | 基礎看護学概論 I | 1 | 30 | 30 | | | | | |
| | | 基礎看護学概論 II | 1 | 30 | | 30 | | | | |
| | | 基礎看護学方法論 I | 1 | 30 | 30 | | | | | |
| | | 基礎看護学方法論 II | 1 | 30 | 30 | | | | | |
| | | 基礎看護学方法論 III | 1 | 30 | 30 | | | | | |
| | | 基礎看護学方法論 IV | 1 | 30 | 30 | | | | | |
| | | 基礎看護学方法論 V | 1 | 30 | 30 | | | | | |
| | | 基礎看護学方法論 VI | 1 | 30 | | 30 | | | | |
| | | 基礎看護学方法論 VII | 1 | 30 | | 30 | | | | |
| | 基礎看護学方法論 VIII | 1 | 30 | | 30 | | | | | |
| | 臨地実習 | 基礎看護学実習 I | 1 | 45 | 15 | 30 | | | | |
| 基礎看護学実習 II | | 2 | 90 | | | | 90 | | | |
| 小計 | | 13 | 435 | 345 | | 90 | | | | |
| 専門分野 II | 成人看護学 | 成人看護学概論 | 1 | 30 | | 30 | | | | |
| | | 成人看護学方法論 I | 1 | 30 | | | 30 | | | |
| | | 成人看護学方法論 II | 1 | 30 | | | 30 | | | |
| | | 成人看護学方法論 III | 1 | 30 | | | 30 | | | |
| | | 成人看護学方法論 IV | 1 | 30 | | | 30 | | | |
| | 老年看護学 | 老年看護学概論 | 1 | 30 | | 30 | | | | |
| | | 老年看護学方法論 I | 1 | 15 | | | 15 | | | |
| | | 老年看護学方法論 II | 1 | 30 | | | 30 | | | |
| | | 老年看護学方法論 III | 1 | 30 | | | 30 | | | |
| | 小児看護学 | 小児看護学概論 | 1 | 15 | | 15 | | | | |
| | | 小児看護学方法論 I | 1 | 30 | | | 30 | | | |
| | | 小児看護学方法論 II | 1 | 30 | | | 30 | | | |
| | 母性看護学 | 小児看護学方法論 III | 1 | 30 | | | | 30 | | |
| | | 母性看護学概論 I | 1 | 15 | | 15 | | | | |
| | | 母性看護学概論 II | 1 | 30 | | | 30 | | | |
| | | 母性看護学方法論 I | 1 | 30 | | | 30 | | | |
| 精神看護学 | 母性看護学方法論 II | 1 | 30 | | | 30 | | | | |
| | 精神看護学概論 I | 1 | 30 | | | 30 | | | | |
| | 精神看護学概論 II | 1 | 15 | | | 15 | | | | |
| | 精神看護学方法論 I | 1 | 30 | | | 30 | | | | |
| | 精神看護学方法論 II | 1 | 30 | | | 30 | | | | |

| 区分 | 教育内容 | 科 目 | 単位数 | 時間数 | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | |
|-----------------------|------------------|-----------|----------|------|------|----|------|----|-----|----|--|
| | | | | | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | |
| 専 門 分 野 Ⅱ | 臨 地 実 習 | 成人看護学 | 成人看護学実習Ⅰ | 2 | 90 | | | | 90 | | |
| | | | 成人看護学実習Ⅱ | 2 | 90 | | | | 90 | | |
| | | | 成人看護学実習Ⅲ | 2 | 90 | | | | | 90 | |
| | | 老年看護学 | 老年看護学実習Ⅰ | 2 | 90 | | | | 90 | | |
| | | | 老年看護学実習Ⅱ | 2 | 90 | | | | | 90 | |
| | | 小児看護学 | 小児看護学実習 | 2 | 90 | | | | | 90 | |
| | | 母性看護学 | 母性看護学実習 | 2 | 90 | | | | | 90 | |
| | 精神看護学 | 精神看護学実習 | 2 | 90 | | | | | 90 | | |
| 小 計 | | | 38 | 1320 | 90 | | 780 | | 450 | | |
| 統 合 分 野 | 在宅看護論 | 在宅看護概論Ⅰ | 1 | 30 | | | 30 | | | | |
| | | 在宅看護概論Ⅱ | 1 | 15 | | | 15 | | | | |
| | | 在宅看護方法論Ⅰ | 1 | 30 | | | 30 | | | | |
| | | 在宅看護方法論Ⅱ | 1 | 30 | | | 30 | | | | |
| | 看護の統合と実践 | 看護の統合と実践Ⅰ | 1 | 30 | | | 30 | | | | |
| | | 看護の統合と実践Ⅱ | 1 | 30 | | | | | | 30 | |
| | | 看護の統合と実践Ⅲ | 1 | 30 | | | | 30 | | | |
| | | 看護の統合と実践Ⅳ | 1 | 30 | | | | 30 | | | |
| | 臨地実習 | 在宅看護論実習 | 2 | 90 | | | | | | 90 | |
| | | 看護の統合と実践 | 2 | 90 | | | | | | 90 | |
| 小 計 | | | 12 | 405 | | | 195 | | 210 | | |
| 合 計 | | | 97 | 3030 | 1125 | | 1095 | | 810 | | |